

Course number		U-LAS00 20007 LJ34					
Course title (and course title in English)		神話論 I Mythology I		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Part-time Lecturer,IWATA FUMIAKI	
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Philosophy(Issues)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	
				Number of credits		2	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
				Year/semesters		2025・First semester	
Days and periods		Mon.4		Target year		All students	
				Eligible students		For all majors	
[Overview and purpose of the course]							
神話は人間存在にとっていかなる意味があるのでしょうか。神話への問いは、神話を必要とする「人間」への問いでもあります。思想家の説を紹介しながら、神話の肯定的側面と否定的側面を考察し、「人間」探求を深めていきます。							
[Course objectives]							
神話理解を深めることで、神話世界に生きた人々の理解を深めることができる。人文科学の方法論の一端を学ぶことができる。							
[Course schedule and contents]							
神話について考察した思想家が神話に取り組んだ姿勢の中には、近代の人間像を捉え直そうとする方向性を認めることができる。次のような思想や思想家を手がかりに、神話と人間との関係を考察してみたい。							
1. 神話とはなにか。昔話や物語との違いなどを考察する（第1回～第2回）。 2. 古典的神話論。古代ギリシアと19世紀の神話論を紹介し、神話への古典的な見方を明らかにする（第3回～第5回）。 3. ニーチェ、フロイト、ベルクソン、レヴィ＝ストロース、エリアーデ、キャンベルの人間理解と神話解釈（第6回～第14回）。 4. 試験、フィードバック：フィードバック期間内に行う（第15～16回）							
[Course requirements]							
None							
[Evaluation methods and policy]							
レポートによる評価 レポートの題目は授業内容の理解を確認するとともに、授業で取り上げた思想書に関するものを予定している。							
[Textbooks]							
Not used							
[References, etc.]							
（References, etc.） 松村一男 『神話学講義』（角川書店）ISBN:4-04-702106-7 その他随時、紹介する							
Continue to 神話論Ⅰ(2)							

神話論Ⅰ(2)

[Study outside of class (preparation and review)]

予習としては、予め紹介した次回の授業の主題に関わる文献を読んでおく。
授業後には、授業で紹介をしたいいくつかの文献を読み、授業で説明した主題の理解を深める。

[Other information (office hours, etc.)]

受身の態度で講義を聴くのではなく、講義のテーマに主体的・積極的に関与していただきたい。授業に積極的に出ることを前提に課題を出す予定であるので、受講に関してはその点に注意をしておく。

[Essential courses]